



## 28 大台ヶ原山中

一面

鹿子木孟郎

昭和七年(一九三二)

油彩、キャンパス

一一三・〇×一六三・〇

山間の溪流が幻想的な雰囲気をもたらしながら描かれている。岩はうねるような粘り気のあるタッチで描かれ、無機質な岩がまるで生命を持つかのように躍動する。対照的に、激しい水の流れを生じているはずの川面は、なぜか静止しているようにすら見える。

大台ヶ原は吉野熊野国立公園内にあり、東大台と西大台からなる。昭和七年(一九三二)、鹿子木孟郎(一八七四～一九四一)は大阪電気軌道株式会社近畿日本鉄道の前身の一つの委嘱により、大台ヶ原のほか、吉野・熊野をめぐる写生旅行に赴いている。前年に国立公園法が制定され、昭和十一年には吉野・熊野地域が国立公園に指定されたが、鹿子木が大台ヶ原を訪れたころは、一部の登山者しか入山しない「魔の山」として恐れられた難所であった。

ゴッツとした岩の間を急流が奔る景色は、この時期の鹿子木や、同じく太平洋画会に所属した吉田博なども好んで描いたテーマである。アカデミックな画法を徹底して追求した鹿子木は、昭和期に入ると寓意画や象徴主義的な作品を多く制作している。写実的な風景画ながら、どこか神秘的な雰囲気を漂わせている本作も、そうした鹿子木の制作志向の一端が表れたものだろう。本作と構図の近い作品として、『大和吉野川の溪流』(一九三三年、三重県立美術館蔵)や『大台ヶ原溪流』(制作年不詳、個人蔵)などがあり、「溪流画」とでも呼ぶべき一連の作品群にあって、極めて高い完成度を示す作品である。第十三回帝展の出品作で、後に宮内省買上となった。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社アイワード  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan